

## 新規遺伝子型ノロウイルスの流行と簡易診断キットの検出感度について

今年もノロウイルス感染症が流行する季節となってきました。

ヒトに感染するノロウイルスの遺伝子型 (G) は I 型、II 型、IV 型ですが、変異株が多いことが知られています。2014 年 12 月まで GII.4 が主流でしたが 2015 年 1 月から GII.17 が優勢となってきております。このウイルスはこれまでの GII.17 の中で新たなサブクラスターを形成しており、変異した新規のウイルスと考えられます (新規遺伝子型ノロウイルス GII.P17-GII.17 の流行. IASR 2015; vol. 36, 175-178; 2015 年 9 月号; available at <http://www.nih.go.jp/niid/ja/norovirus-m/norovirus-iasrs/5903-pr4273.html> )。

このウイルスは変異しているため、現在、日本でよく使われている簡易診断キット (イムノクロマト法) では検出されにくいとされています (ノロウイルス GII.17 型の流行とその特徴について-三重県. IASR 2015; vol. 36, 91-92; 2015 年 5 月号; available at <http://www.nih.go.jp/niid/ja/norovirus-m/norovirus-iasrd/5695-kj4233.html> )。

また、eurosurveillance の論文によりますと日本の市販イムノクロマト簡易診断キット 4 種 (GE test Noro Nissui, Nissui; ImmunoCatch-Noro, Eiken; Quick Navi-Noro 2, Denka; Quick Chaser-Noro, Mizuho Medy) では、いずれも便中ウイルス量が  $10^8$  copies/mL 以上であれば陽性と判定できるが、それ以下では陰性となると述べられています (P Khamrn et al. Evaluation of immunochromatography tests for detection of novel GII.17 norovirus in stool samples. Euro Surveillance 2015; 20 (28): pii=21185 available at <http://www.eurosurveillance.org/ViewArticle.aspx?ArticleId=21185> )。

今後、キットに改良がくわえられると期待されますが、現状では検査結果が陰性でもノロウイルス感染症が否定できないことにご留意ください。

2015 年 11 月 24 日

日本病院会 感染症対策委員会  
委員長 木村 哲  
副委員長 小林寛伊  
委員 一山 智  
委員 岩田 敏  
委員 大石和徳  
委員 大曲貴夫  
委員 洪 愛子